

目次

はじめに

目次・凡例

第45回特別展にかかわる長野市内の堂庵の分布

I章	お堂の変遷	1
II章	村人の祈りの場	5
1	祈りの諸相	5
2	あの世とお堂	15
3	お堂と善光寺仏師	24
III章	村人の集いの場	30
1	お堂の行事	30
2	堂守・庵主と地域の人々	38
3	お堂に納められた品々	44
4	集会所としてのお堂	49
IV章	お堂を支えた人々	51
1	廃寺廃堂令とお堂	51
2	お堂を支えた人々	53
	展示資料一覧	60
	主な参考文献・協力者一覧	62

凡例

1. この図録は平成12年10月7日（土）から11月23日（木）までを会期とする特別展「村人の祈りと集いの場～お堂の役割を探る～」の展示図録である。
2. 図録に掲載する写真は必ずしも展示の順序とは一致しない。また図録に掲載した写真は展示資料の全てではない。
3. 掲載写真は提供を受けたものについてはそれぞれ提供者を明示し、それ以外のものは本館学芸員山口明、降幡浩樹、細井雄次郎が担当した。
4. 本図録の編集、執筆は当館学芸員の細井雄次郎が担当し、館員がこれを補助した。
5. 資料所蔵者、写真提供者の表記については敬称を省略した。
6. 長野市内の地域の名称については、現在使われている行政区名に基づいて町村（地区）ごとに示した。

はじめに

皆さんは「お堂」と聞いて何をイメージされるでしょうか。小さい頃の遊び場、青年団の頃の神楽の練習場、うす暗くて気味の悪い場所など、さまざまなイメージが浮かび上がることと思います。お堂にまつわるこうしたイメージは、お堂と私たちの多様な関わりの表れでもあります。

昭和30年代以前まで、小さな木造の建物の中に仏さまが安置され、その多くが無住であったお堂は、お寺と違って気軽に誰もが中に入って仏さまにお祈りをしたり、寄り合いの場として利用したり、また子供たちの遊び場にもなっていました。また、春秋のお彼岸には先祖供養をしたり、年中行事が行われる場でもありました。お堂はさまざまな面で私たちの生活と密接に関わっていました。

昭和30年代以降、昔ながらのお堂が近代的な建物に建て替えられ、公会堂と名称を変えてからもその役割は基本的には変わっていません。しかし、人々の生活スタイルの変化により、お堂を使う機会が減ったため、お堂と地域の人々との関係は次第に薄れてきました。

今回の展示では、お堂と私たちの生活が密接に関わりあっていた頃の様子を振り返りながら、お堂がどのような役割を果たしてきたのかを探りたいと思います。

この展示が、私たちにとってお堂を再び見直すきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、展示にあたってご協力をいただきました各地区の皆さま、並びに関係者の皆さまに対し厚く御礼申し上げます。

平成12年10月7日

長野市立博物館長